

令和 5 年 6 月 10 日現在

機関番号：14602

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2022

課題番号：16K03114

研究課題名（和文）中世北・中部イタリア都市文化と支配者層

研究課題名（英文）Urban Culture and Ruling People in Medieval Northern and Central Italy

研究代表者

山辺 規子（YAMABE, Noriko）

奈良女子大学・その他部局等・名誉教授

研究者番号：00174772

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究はボローニャを中心とするイタリア都市の文化、さらに日本とも関連づけられる食文化論、健康論について、3つの柱（1イタリアにおける大学と都市との関係の考察2イタリア都市景観の研究3『健康全書』に関する研究）から研究を進めてきた。本来は、2016年からの5年計画の研究だが、新型コロナウイルス流行により、イタリアでの史料収集、研究集会での発表などが適切に進められず、2022年度までの7年にわたる研究となった。この間に『世界歴史体系イタリア史』『イタリア史のフロンティア』などの分担執筆、研究会報告、海外シンポジウムや国際中世学会での発表、日本西洋史学会大会公開講演などの学会活動をおこなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果として、まず一般に1088年創立とされているボローニャ大学は、都市と大学関係者が近現代にいたるまで長年かけて大学として創り上げられたのであり、単に法学を学ぶ学生集団をもとにした中世大学というだけではないことを示した。また、従来イスラム世界の一般向け医学書の翻訳本で、生活風景を示す豪華写本としての意味が強調されてきたTacuinum Sanitatisについても、単なる翻訳というだけでなく黒死病以降により広く普及する『健康書』の中で作成の状況に対応して広く知識普及をめざすものであったことを指摘したことが挙げられ、学問と社会のつながりを示した。

研究成果の概要（英文）：This research focuses on culture of Italian cities, especially culture of Bologna and health theory. It has proceeded from three viewpoints, as follows; (1) Study of the relationship between universities based on Italian model and cities in Italy (2) Study of Italian cityscape (3) Study on Tacuinum Sanitatis Medieval handbook of health. Though initially, it was a five-year plan from 2016 to 2020, but due to the Covid-19 epidemic, it was difficult to continue to research historical materials in Italy and to make presentations at actual meetings, so I decide to extend up to 2022. I participated in academic activities such as co-authoring “General History of Italy II” and “Frontier of Italian History”, reporting at the symposium at the University of Bologna, at the International Medieval Congress in Leeds, and giving a public lecture at the Conference of the Japanese Society for Western History.

研究分野：西洋史

キーワード：ボローニャ 中世イタリア 大学創成 都市社会 Tacuinum Sanitatis 健康書 養生訓の普及 食文化

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1．研究開始当初の背景

研究開始時まで、山辺規子は、さまざまな共同研究、科研「中世イタリアにおける「大学」と支配者層の関係」「中世中期イタリアにおける支配者層の諸相の比較研究」を通じて、ポローニャ大学創立 900 周年記念事業の成果を用いながら、ポローニャにおける都市と大学の親密な関係、貴重な法学書の持つ意味、ポローニャ大学の法学者のステイタスや講義担当、俸給、北中部イタリアを遍歴する最高行政官ポデスタなどに着目する研究をおこなっていた。そこで、中世を通じてポローニャの大学と都市のありかたについて実証的に研究を進めることを本研究の第一の柱とした。

また、ポローニャは、中世の歴史的な中心地区の景観を保存していることで知られるが、その中世都市的景観は数世紀をかけて形成されたもので、支配者層のありかたと時代のニーズで姿を変えた。この変化は、代表的な例として取り上げられるフィレンツェやヴェネツィアでもみられるが、比較対照されるべきものとしてイタリア各地の都市の都市景観の特徴を確認しており、その調査研究を継続する必要性を感じていたため、都市景観に関わる研究を、本研究の第二の柱とした。

他方、ポローニャ大学の研究者の交流の中で、注目することになったのが、簡便な表形式の健康に関するハンドブック *Tacuinum Sanitatis* である。とりわけ大きな図版付きの *Tacuinum Sanitatis* の写本は重要であり、2011-2013 年度には「『健康全書タクイヌム・サニターティス』をめぐる多角的研究」で科研研究を進めていたが、なお別系統の図版付きの写本や広く関心と呼ぶようになった養生訓 (*Regimen Sanitatis*) の中での位置づけなどの課題が残っており、この研究の継続を本研究の第三の柱とした。

三つの柱とした本研究は、いずれもポローニャ大学および国立ポローニャ文書館の研究者との共同研究、意見交換のなかで進められてきたもので、本研究もまた毎年ポローニャにおける研究意見交換の場を持ち、日本においては毎年の中世イタリア史研究会で研究の途中経過報告をおこなうこととした。

## 2．研究の目的

中世後期からルネサンス期にかけての北・中部イタリアの諸都市では、ルネサンス文化が開花したことが特に注目されるが、ヨーロッパの最古の大学の一つであるポローニャ大学を筆頭として多くの大学が創設されたことも特筆すべき点である。都市の世俗支配者は、法学を中心とするイタリアの大学においてしかるべき統治能力を養い、大学を都市の重要な要素として活用した。また、諸都市の支配者層は、君主として活動しようと、市民として活動しようと、文芸保護や芸術支援、さらにすばらしい都市景観を作り上げることによって、その力を示すとともに、他都市の支配者ともさまざまなかたちで文化交流をおこなった。そのなかには、黒死病流行を契機として、もともと中世医学が重要とされた健康に関するアドバイスをまとめた養生訓が広く普及していく動きがあり、その代表といえる図版付きの *Tacuinum Sanitatis* である。本研究は、ポローニャを中心として、北・中部イタリアにおける支配者層と都市文化の関係を明らかにすることを目的としている。

## 3．研究の方法

(1) 大学に関わる研究では、最古の大学であるポローニャ大学と大学を支える都市との関係に関して、国立ポローニャ文書館およびポローニャ大学において史料調査をおこなった。このほか、イタリアの他の大学(パドヴァ、パヴィア、ペルージャ)との比較をおこなう予定であったが、この点では、研究の収集にとどまった。

(2) 都市景観については、これまで12世紀～14世紀のポローニャ中心広場と15,16世紀に形成され現在の「歴史的な中心地区」とされる地区を中心に、最新研究成果を利用して視点を変えながら、都市景観のありようをまとめた。また、史料調査でも訪れるフィレンツェ、ヴェネツィアを中心に他のイタリア都市との実地調査をおこなった。ただし、新型コロナウイルス流行により、一部の調査ができないまま、論考にまとめるにはいたらなかった。

(3) *Tacuinum Sanitatis* については、関係史料を所蔵しているウィーンの国立図書館、プラハの大学図書館、フィレンツェ国立図書館で史料調査をおこなったほか、2019年には、国際中世学会(英国リーズ)で報告をおこない、ヨーロッパの研究者との意見交換の場を得て、研究の総括につなげた。

研究交流の点では、2016-2019年度にはポローニャで直接意見交換をすることができたが、本研究をまとめる年度(結果として2020年度～2022年度)には新型コロナウイルス流行のためオンラインによる意見交換にとどまった。国内のイタリア史関係の研究会も同様に新型コロナウイルス流行後は、オンラインによる開催となったが、イタリア中近世史研究会では毎年研究の途中経過に関する報告をしたほか、他の研究課題についてもできるかぎり意見交換の場に参加した。また、この間、関連研究を刊行する場や講演する機会に恵まれ、本研究に関わる研究を公開した。

#### 4. 研究成果

研究の三つの柱のうち、(1)(2)のポローニャ大学の長い歴史を追った研究および都市景観の変化については、招待講演として「ポローニャ 都市と大学の誕生と発展」(2019年、関西学院大学西洋史大会)「ポローニャ大学の創成」(2023年、日本西洋史学会大会(名古屋大学))のかたちで披露し、前者は既に刊行されている。大学で法学を学んだ人材が各地の最高行政官ポデスタとして赴任することについては、イタリア史研究会の論集『イタリア史のフロンティア』に「ポデスタ」の論考を掲載することができた。また『世界歴史体系イタリア史 中世・近世』において、ポローニャが含まれる教皇領の歴史について、通史を担当した。この2冊の研究書に投稿した「教皇領の通史(中世・近世)」「ポデスタ」はいずれも、日本において初めて研究対象とされたことであり、関係する研究者に送付し意見を求めることとした。また、新型コロナウイルス流行にかかわっては、「黒死病流行期の大学都市ポローニャ」の論考を発表した。黒死病との関わりでは、フィレンツェ、ヴェネツィアなどの例が取り上げられるが、本格的な医学部が誕生したとされるポローニャに残る史料から、支配者層にも死者がいる一方で日常性の継続がみられることを明らかにし、有名な事例だけでは見えてこない実像を示した。

(3)の *Tacuinum Sanitatis* に関わる研究では、2019年のリーズ(英国)、2023年(8月に予定)のソウル(韓国)と国際研究集会で報告(英語)をすることとなり、本研究のなかではもっとも国際的な研究となっている。リーズの国際中世学会で意見交換をしたドイツの研究者 Dr. Dominic Olariu(マールブルク大学)とは、その後もオンラインでやりとりをし、山辺規子の論考が2022年刊行の彼の論考に引用されることになった。また、ポローニャ大学の Prof. Massimo Montanari がこの *Tacuinum Sanitatis* の図像を示したことから始めた食文化関連研究では、2016年にポローニャ大学で「日本におけるイタリア料理の普及」の報告(イタリア語)をおこない、この報告が、Montanari 教授への献呈論文集に収録されることになった。(なお、日本では、2016年に食文化研究部会大会の招待講演で講演し、2017年度に同学会の学会誌である『食文化研究』に掲載されている。)この論考については、世界的なイタリア料理の広がり例として注目されている。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 山辺規子	4. 巻 17
2. 論文標題 黒死病流行期の大学都市ボローニャ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 奈良女子大学文学部研究教育年報	6. 最初と最後の頁 35-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山辺 規子	4. 巻 43
2. 論文標題 ボローニャ 都市と大学の誕生と発展	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 関学西洋史論集	6. 最初と最後の頁 39-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山辺 規子	4. 巻 55
2. 論文標題 もう一つのノルマン・コンクエスト 南イタリアのノルマン征服	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 西洋史学論集	6. 最初と最後の頁 52-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山辺 規子	4. 巻 13
2. 論文標題 イタリア料理の日本における普及	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 会誌 食文化研究	6. 最初と最後の頁 69-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 山辺 規子
2. 発表標題 ポローニャ大学の創成
3. 学会等名 第73回日本西洋史学会大会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Noriko S. Yamabe
2. 発表標題 Tacuinum Sanitatis—one of Regimina Sanitatis, Medieval Health Handbooks
3. 学会等名 The 11th Korean Japanese Symposium on Medieval History of Europe（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山辺 規子
2. 発表標題 ポローニャ大学の誕生と発展
3. 学会等名 イタリア中近世史研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山辺 規子
2. 発表標題 黒死病期のポローニャ 都市と大学関係者のありかた
3. 学会等名 イタリア中近世史研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山辺 規子
2. 発表標題 13-14世紀ボローニャのサン・ドメニコ教会とサン・フランチェスコ教会 大学とコムーネ
3. 学会等名 イタリア中近世史研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山辺 規子
2. 発表標題 Giovanni Cadamosto da Lodiの『健康全書Tacuinum Sanitatis』の序論
3. 学会等名 イタリア近世史研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山辺規子
2. 発表標題 Tacuinum Sanitatisが示す健康 中世後期イタリア由来の健康マニュアル
3. 学会等名 第45回地中海学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Noriko S. Yamabe
2. 発表標題 Tacuinum Sanitatis illustrated and adapted in medieval Italy
3. 学会等名 International Medieval Congress (Leeds) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山辺規子
2. 発表標題 ボローニャ 大学が誕生した町とその発展
3. 学会等名 関学西洋史研究会2019年次大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山辺 規子
2. 発表標題 Pietro de' Crescenzi 中世ヨーロッパ最初にして最大の農学者
3. 学会等名 イタリア中近世史研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山辺 規子
2. 発表標題 もう一つのノルマン・コンクエスト 南イタリアのノルマン征服
3. 学会等名 シンポジウム「バイユーの綴織の世界」（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山辺規子
2. 発表標題 ボローニャ大学と法学研究の起源をめぐって
3. 学会等名 イタリア中近世史研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Noriko YAMABE
2. 発表標題 La diffusione del cibo italiano in Giappone
3. 学会等名 ITALIA GIAPPONE, INFLUENZE E SCAMBI Symposiumf Bologna University (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 山辺 規子
2. 発表標題 日本におけるイタリア料理の普及
3. 学会等名 日本家政学会食文化研究部会研究大会(招待講演)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 Noriko S. Yamabe, Tiziana Lazzari e Francesca Pucci Donati et als.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Viella	5. 総ページ数 636
3. 書名 A banchetti con gli amici. Scritti per Massimo Montanari	

1. 著者名 齋藤寛海他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 730
3. 書名 世界歴史体系イタリア史2(中世・近世)	



1. 著者名 山辺 規子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 944
3. 書名 大学事典	

1. 著者名 西村善矢 城戸照子 高田京比子 徳橋耀 齋藤寛海 和栗珠里 山辺規子 中谷惣 佐藤公美 亀長洋子 高田良太 藤内哲也 三森のぞみ 大黒俊二 木村容子 北田葉子 松本典昭 石坂尚武	4. 発行年 2022年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 306
3. 書名 イタリア史のフロンティア	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>黒死病流行期の大学都市ポローニャ  <a href="https://opac2.lib.nara-wu.ac.jp/webopac/a12015204v17pp35-48_nw._?key=LSTQSZ">https://opac2.lib.nara-wu.ac.jp/webopac/a12015204v17pp35-48_nw._?key=LSTQSZ</a>          関西学院大学リポジトリ「&lt;講演録&gt;ポローニャ：都市と大学の誕生と発展  <a href="https://kwansei.repo.nii.ac.jp/index.php?active_action=repository_view_main_item_detail&amp;page_id=30&amp;block_id=85&amp;item_id=28595&amp;item_no=1">https://kwansei.repo.nii.ac.jp/index.php?active_action=repository_view_main_item_detail&amp;page_id=30&amp;block_id=85&amp;item_id=28595&amp;item_no=1</a>          Benvenuto a NYamabe  <a href="http://nyamabe.fem.jp/">http://nyamabe.fem.jp/</a></p>
---

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------

イタリア	University of Bologna	Archivio Stato di Bologna		
------	-----------------------	---------------------------	--	--